

令和2年度

南三陸町教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

令和2年9月4日

南三陸町教育委員会

令和２年度 南三陸町教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

1 点検及び評価の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条の規定により、教育委員会では、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされています。

本報告は、本町教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告を公表することにより、町民皆様に対する教育行政の説明責任を果たしていくとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 令和２年度点検評価実施内容について

（１） 点検・評価の対象事業について

令和元年度に実施した事業のうち「南三陸町第２次総合計画（基本計画 第２章個別計画 政策４学校教育・生涯学習－地域を守り創造を育むまちづくり）」及び「南三陸町教育振興基本計画（第３章本町の目指す教育、第４章本町の教育の基本施策）」に掲げられた事業から、特に子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業、生涯にわたる学びや健康づくり・地域づくりのために取り組むべき事業を中心に、学校教育分野で１０事業、生涯学習・生涯スポーツ分野で８事業の合計１８事業の評価を行いました。

（２） 点検・評価の方法について

選定した事業について、事業評価シートを作成し、令和元年度にお

ける取組実績及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、町議会へ報告するとともに、町のホームページに掲載し、公表いたします。

4 学識経験者からの意見聴取

(1) 学識経験者として依頼した者

山内 順 氏（元学校長：学校教育分野）

西條 榮福 氏（元町議会議員：生涯学習分野）

(2) 学識経験者からの意見聴取日時等

日時：令和2年8月19日（金） 午前10時～午後3時

会場：南三陸町教育委員会 教育長室

令和２年度南三陸町教育委員会の活動状況に関する点検及び評価
対象事業一覧

番号	事業名	担当課
1	志教育（キャリア教育）推進事業	教育総務課
2	小中学校学力向上推進事業	教育総務課
3	児童生徒・教職員心のケア推進事業	教育総務課
4	いじめ・不登校対策	教育総務課
5	特別支援教育推進事業	教育総務課
6	児童生徒通学手段緊急確保事業	教育総務課
7	外国語教育推進事業	教育総務課
8	中高一貫教育推進事業	教育総務課
9	学校施設環境改善事業	教育総務課
10	災害教訓の伝承・防災教育の推進	教育総務課
11	図書館運営事業	生涯学習課
12	青少年ふろさと学習交流事業	生涯学習課
13	社会教育施設等整備事業	生涯学習課
14	各種講習会・大会の開催	生涯学習課
15	スポーツ少年団活動育成支援事業	生涯学習課
16	施設整備事業	生涯学習課
17	芸術文化振興事業	生涯学習課
18	文化の伝承（無形民俗文化財再生支援事業）	生涯学習課

事業番号			1	事業名	志教育(キャリア教育)推進事業																																		
予算科目	款		総合計画	政策4	学校教育・社会教育																																		
	項			施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実																																		
	目			基本事業4-1-1	自立する力と確かな学力の育成																																		
目的及び事業内容				県教育委員会が掲げる「みやぎの志教育」のもと、本町教育委員会としてもこれに取り組み、学校教育等を通じて子どもたちを次のような姿にしていく。 1 社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかりとつ人 2 より良い人間関係を作るコミュニケーション力があり、協力して行動できる人 3 自分で考え行動するなど、自立心を持つ人 4 苦しさ、つらさなどに耐える力を持ち、粘り強く物事にあたれる人 5 未来のことや新しいことを考える力があり、社会のことをよりよくしようとする人 上記「人」を育てるために、①人と「かかわる」、②よりよい生き方を「求める」、③社会での役割を「はたす」、この三つの視点をもとにして、教科指導・学級活動・道徳・総合的な学習の時間・各種の行事等において実践を進めている。																																			
取組実績				小学校、中学校のそれぞれの教育計画の中で、「志教育」の目標を定め、重点指導項目とされている①人と「かかわる」、②よりよい生き方を「求める」、③社会での役割を「はたす」のための取り組みを実践している。南三陸町の地域の学習についての調べ学習や体験活動を行うことで、児童の自己肯定感を養い、自分の思いを表現したり相手に伝えたりする表現力や思考力・判断力の育成目指している。 ＜各校の視点毎の取組例＞ <table><tr><td></td><td>①かかわる</td><td>②もとめる</td><td>③はたす</td></tr><tr><td>志小</td><td>南三陸キクの栽培</td><td>南三陸を愛する人材の育成</td><td>防災マップ作り 志小アルカス</td></tr><tr><td>戸小</td><td>戸倉のよさを知る活動</td><td>蚕やサケの飼育</td><td>繭を活用したマスコット作り</td></tr><tr><td>入小</td><td>太鼓や獅子舞を学び、発表</td><td>蚕の飼育・繭細工</td><td>地域の良さや課題から未来の入谷を考える</td></tr><tr><td>伊小</td><td>地域の方々から伊里前のよさを学ぶ</td><td>シロウオ漁・ワカメ養殖等の体験</td><td>勤労奉仕の大切さを理解させる活動</td></tr><tr><td>名小</td><td>縦割り班活動を活かした取組</td><td>ワカメ養殖・ホタテ養殖等体験活動</td><td>ふるさと南三陸、町づくりプラン</td></tr><tr><td>志中</td><td>森里海連環学を活かした学び</td><td>職場体験学習</td><td>避難所運営訓練</td></tr><tr><td>歌中</td><td>伝統伝承活動・地域学習</td><td>職場体験学習</td><td>避難所運営訓練</td></tr></table>					①かかわる	②もとめる	③はたす	志小	南三陸キクの栽培	南三陸を愛する人材の育成	防災マップ作り 志小アルカス	戸小	戸倉のよさを知る活動	蚕やサケの飼育	繭を活用したマスコット作り	入小	太鼓や獅子舞を学び、発表	蚕の飼育・繭細工	地域の良さや課題から未来の入谷を考える	伊小	地域の方々から伊里前のよさを学ぶ	シロウオ漁・ワカメ養殖等の体験	勤労奉仕の大切さを理解させる活動	名小	縦割り班活動を活かした取組	ワカメ養殖・ホタテ養殖等体験活動	ふるさと南三陸、町づくりプラン	志中	森里海連環学を活かした学び	職場体験学習	避難所運営訓練	歌中	伝統伝承活動・地域学習	職場体験学習	避難所運営訓練
	①かかわる	②もとめる	③はたす																																				
志小	南三陸キクの栽培	南三陸を愛する人材の育成	防災マップ作り 志小アルカス																																				
戸小	戸倉のよさを知る活動	蚕やサケの飼育	繭を活用したマスコット作り																																				
入小	太鼓や獅子舞を学び、発表	蚕の飼育・繭細工	地域の良さや課題から未来の入谷を考える																																				
伊小	地域の方々から伊里前のよさを学ぶ	シロウオ漁・ワカメ養殖等の体験	勤労奉仕の大切さを理解させる活動																																				
名小	縦割り班活動を活かした取組	ワカメ養殖・ホタテ養殖等体験活動	ふるさと南三陸、町づくりプラン																																				
志中	森里海連環学を活かした学び	職場体験学習	避難所運営訓練																																				
歌中	伝統伝承活動・地域学習	職場体験学習	避難所運営訓練																																				
成果				＜視点毎の主な成果＞ <table><tr><td>かかわる</td><td>もとめる</td><td>はたす</td></tr><tr><td>・自分の周りには、たくさんの支えてくれている人がいることを理解した。 ・ふるさとに興味をもち、ふるさとの良さを理解することができた。 ・地域伝統の継承者としての自覚をもつことができた。 ・異学年間に仲間意識が芽生えている。 ・地域の方々に積極的に関わろうとする児童生徒の姿を見ることができた。 ・自分の知識をより深めようとする姿が見られた。 ・地域の防災に積極的に取り組むことができた。</td><td>・支えてくれている人に対して、感謝の気持ちを表すことができた。 ・飼育活動を通して、その大変さと大切さについて学ぶことができた。 ・地域の伝統の素晴らしさに気づくことができた。 ・地域毎の生活や文化の違いについて理解を深めることができた。 ・学年に応じた将来の夢をもつ児童生徒が増えた。 ・働くことの意義を知り、その大変さや人との触れ合いの大切さについて学ぶことができた。</td><td>・自分のまちが好きな児童生徒が増えた。 ・相手の立場で物を見たり、考えたりすることができるようになった。 ・地域のために、自分ができていることをしっかりと考えることができた。 ・人と自然との関わりに興味をもつ児童生徒が増えた。また、その中での自分の役割について考え行動することができた。 ・人の役に立つことに喜びを感じる児童生徒が増えた。 ・職業観や勤労観について考えることができた。</td></tr></table>				かかわる	もとめる	はたす	・自分の周りには、たくさんの支えてくれている人がいることを理解した。 ・ふるさとに興味をもち、ふるさとの良さを理解することができた。 ・地域伝統の継承者としての自覚をもつことができた。 ・異学年間に仲間意識が芽生えている。 ・地域の方々に積極的に関わろうとする児童生徒の姿を見ることができた。 ・自分の知識をより深めようとする姿が見られた。 ・地域の防災に積極的に取り組むことができた。	・支えてくれている人に対して、感謝の気持ちを表すことができた。 ・飼育活動を通して、その大変さと大切さについて学ぶことができた。 ・地域の伝統の素晴らしさに気づくことができた。 ・地域毎の生活や文化の違いについて理解を深めることができた。 ・学年に応じた将来の夢をもつ児童生徒が増えた。 ・働くことの意義を知り、その大変さや人との触れ合いの大切さについて学ぶことができた。	・自分のまちが好きな児童生徒が増えた。 ・相手の立場で物を見たり、考えたりすることができるようになった。 ・地域のために、自分ができていることをしっかりと考えることができた。 ・人と自然との関わりに興味をもつ児童生徒が増えた。また、その中での自分の役割について考え行動することができた。 ・人の役に立つことに喜びを感じる児童生徒が増えた。 ・職業観や勤労観について考えることができた。																										
かかわる	もとめる	はたす																																					
・自分の周りには、たくさんの支えてくれている人がいることを理解した。 ・ふるさとに興味をもち、ふるさとの良さを理解することができた。 ・地域伝統の継承者としての自覚をもつことができた。 ・異学年間に仲間意識が芽生えている。 ・地域の方々に積極的に関わろうとする児童生徒の姿を見ることができた。 ・自分の知識をより深めようとする姿が見られた。 ・地域の防災に積極的に取り組むことができた。	・支えてくれている人に対して、感謝の気持ちを表すことができた。 ・飼育活動を通して、その大変さと大切さについて学ぶことができた。 ・地域の伝統の素晴らしさに気づくことができた。 ・地域毎の生活や文化の違いについて理解を深めることができた。 ・学年に応じた将来の夢をもつ児童生徒が増えた。 ・働くことの意義を知り、その大変さや人との触れ合いの大切さについて学ぶことができた。	・自分のまちが好きな児童生徒が増えた。 ・相手の立場で物を見たり、考えたりすることができるようになった。 ・地域のために、自分ができていることをしっかりと考えることができた。 ・人と自然との関わりに興味をもつ児童生徒が増えた。また、その中での自分の役割について考え行動することができた。 ・人の役に立つことに喜びを感じる児童生徒が増えた。 ・職業観や勤労観について考えることができた。																																					
成果に係る評価				学校から以下のような報告があがっており、一定の成果が認められる。 ・人やもの、自然と積極的に関わろうとする児童や生徒が増えてきている。その関わりが、自分自身をよりよく見つめることにつながり、それが、自身の成長につながっている。 ・将来の夢をもっている、という児童・生徒が増えてきている。その結果、自分のこれからの生き方について見通しをもつことにつながっていると考えられる。 ・周りの人や地域社会に、自分のできることで貢献していこう、という思いをもつ児童・生徒が増えていると思われる。																																			
予算の執行状況				(単位:円) <table><tr><td rowspan="2">予算額</td><td rowspan="2">決算額</td><td colspan="5">決算額の財源内訳</td></tr><tr><td>国(県)支出金</td><td>地方債</td><td>その他</td><td>一財(特交)</td><td>一財(特交以外)</td></tr><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				予算額	決算額	決算額の財源内訳					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)	0	0																		
予算額	決算額	決算額の財源内訳																																					
		国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)																																	
0	0																																						

事業番号			2	事業名		小中学校学力向上推進事業				
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育				
	1 2 3	項	教育総務費 小学校費 中学校費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実				
	2 1 1	目	事務局費 学校管理費 学校管理費		基本事業4-1-1	自立する力と確かな学力の育成				
目的及び事業内容				当町の学力については、全国学力・学習状況調査の結果から考えると、ほとんどの教科において全国平均との差が縮まってきている。これについては、これまでの町全体での取組が成果として現れてきていると言うことができる。 しかしながら、特定の教科においては、これまでの町としての取組が結果として表れず、全国平均を下回っている状況である。特に中学校においてその傾向が顕著に表れている。これについては、基礎学力の定着とともに、小中の連携、学習の接続等に課題があるとみられることから、南三陸町立小中学校の統一した学習スタイルの確立を中心に、児童生徒の確かな学力の定着を図っていく必要がある。 また、このことに必要不可欠となる教職員の教科指導力の向上もあわせて図っていく。 ＜学力向上に係る特色のある取組＞ ・ 学力向上対策委員会、八峰町教育現場等視察研修、CRTテスト、学力向上研修会、うたはん						
取組実績				【学力向上対策委員会】南三陸町内の教員の指導力向上、そして、児童・生徒の学力向上に向けての取組 ・ 南三陸町小・中学校 9年間を見通した学習スタンダード、家庭学習の手引の作成 ・ 学力向上対策委員による対策検討会の実施と成果事例の共有化 【八峰町教育現場等視察研修】 ・ 町内教職員19名を秋田県八峰町に派遣し、学力向上に先進的に取り組む現場を視察 【CRTテスト】「基礎・基本の確実な定着」の評価に活用 ・ 小学校は年度末、中学校は年度初めの年間1回の実施。 ・ 年間の指導目標の実現状況を確認すると共に、得られる客観的資料を基にした学力向上に向けた計画立案の一助とする。 【学力向上研修会】・・・町内全教員を対象した研修会 ・ 大河原町立大河原小学校、川田智佳子校長を講師とした講演会「学力向上に向けて」 【うたはん】大阪大学大学院との連携で進める歌津中学校区3校での学力向上に向けた取組 ・ 9年間を見通した「習熟度別プリント」の活用に向けた準備 ・ 9年間を見通した家庭学習指導への準備						
成 果				目の前の子どもたちの姿を見る限り、前年度と比べ、より主体的で対話的かつ深い学びをしている児童・生徒が多くなった。また、小・中学校が統一の「家庭学習の手引」を作成し、活用したことにより、家庭学習の習慣もしっかりと身に付いてきている。 全国学力学習状況調査においては、全国・県の平均と同程度の得点率であり、各教科で改善が見られた。しかしながら、中学校の数学と英語については、全国や県との差はなかなか縮まらない状況である。 全国学力学習状況調査の結果を基に、学力向上対策委員会で以下の課題を確認し、その改善に向けての取組を行っていく。 ・ 基礎的・基本的な力の向上 ・ 個別の指導を必要とする児童・生徒に対しての学習時間と学習の場の確保 ・ よりよい学び合い作りと授業と連携した家庭学習の推奨 ・ 小中学校の9年間を見通した学習スタンダード、小中統一の家庭学習の手引の作成 ・ 教師の授業力向上に向けたプロジェクトの立案						
成果に係る評価				学習に取り組む姿勢やその学び方は、明らかに改善してきている。それは、全国学力学習状況調査での具体的な数字として表れてきている。ただ、教科によっては、その改善が見られていないものもある。これまでと同様に「基礎・基本」のしっかりとした定着を図り、学力学習状況調査等で得られた客観的なデータを分析し、学力向上に向けた取組を進めていく必要がある。また、今年度作成した「南三陸町学習スタンダード」の定着と、南三陸町スタイル(1時間完結、構造的な板書、授業の流れカードの提示)を確立し、小・中学校の学習の連結を図りたい。 また、子どもたちの学力の保証、そしてその向上のために、今後も、学校、保護者、行政、学識者等が連携し、よりよい学力向上に向けたプロジェクトを進めていきたいと考える。 教育という営みは、本来、客観的なデータで表す類のものではないし、すぐに効果が現れるものでもない。是非、子どもたちが、分かった、できた、という思いをもち、学ぶ楽しさを味わうことのできる、学力向上を目指して、取り組んでいきたい。						
予算の執行状況				(単位:円)						
				予算額	決算額	決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
				1,966,000	1,749,543					1,749,543

事業番号			3	事業名		児童生徒・教職員心のケア推進事業			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育			
	1	項	教育総務費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実			
	2	目	事務局費		基本事業4-1-2	豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成			
目的及び事業内容			東日本大震災により、多くの児童生徒が恐怖や衝撃、喪失体験等をしている。また、震災後の生活においても、仮設住宅での生活や保護者の生業の変更等により、児童生徒を取り巻く生活環境、経済環境も激変している。 さらに、教職員にも被災者が多数いることから、児童生徒及び教職員の双方に、学校生活における安心感・安定感の回復及び心身のコントロールの回復を図るための心のケアを行う。						
取組実績			東日本大震災の影響をはじめとする様々な要因により心のケアを必要とする児童生徒等に対し、必要な支援を行うため、平成28年度より「南三陸町子どもの心のケアハウス」を開設し、指導員が学校訪問等により児童生徒等の状況把握や意見交換を行うなど、適切な支援体制の整備に努めた。 また、臨床心理士等の資格を有するスクールカウンセラー(日数:延べ218日、相談件数:延べ325件)を配置して、児童生徒の情緒の安定を図るとともに、教職員への助言等に努めたほか、県の委託事業であるスクールソーシャルワーカー活用事業等を活用し、震災の影響等で生活のケアが必要な児童生徒及びその家庭を支援するために、スクールソーシャルワーカー2名により相談業務に当たった。 さらに、学校不適応児童生徒への対策として適応指導教室「はまゆり教室」を開設し、支援体制の整備を図った。						
成 果			平成28年度より「南三陸町子どもの心のケアハウス」を開設し、指導員が各小中学校へケアハウスの事業内容を説明するとともに、不登校及び不登校傾向にある児童生徒の情報収集を行うことができた。 不登校及び不登校傾向にある児童生徒や保護者に対して、スクールカウンセラーによるカウンセリングや指導を行い、心のケアに努めることで、徐々にではあるが改善が見られた。 スクールソーシャルワーカー活用事業においては、2名のスクールソーシャルワーカーを、月2回、複数拠点校方式と派遣方式を併用し、要望に応じて様々なケースに対応した。学校の教職員との関係性が構築され、情報交換や共有がスムーズになり、子どもや保護者に対して腰を据えた支援が展開でき、併せてケアハウス、適応指導教室が設置されたことで、専門機関との有機的な連携が図れた。 また、はまゆり教室においては、通室者に対し、個に応じた支援を行うことで、学ぶことの大切さを改めて理解し、自分なりに努力し取り組むことができた。適応指導により、心身のバランスが取れ、自分のペースではあるが学校にも通うことができていた。						
成果に係る評価			ケアハウス及び適応指導教室の設置により、復興事業の影響に伴う環境の変化への対応や震災後世代の入学による混在等の課題に対し、心のケアの長期的取組が必要となる児童生徒及び家庭をまるごとサポートする体制が見えはじめてきた。 また、不登校及び不登校傾向にある児童生徒や保護者に対して、継続して心のケアに努めることが重要となることから、スクールカウンセラーの設置やスクールソーシャルワーカー活用事業等により、関係機関と連携のうえ更なる支援が必要となる。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			6,015,000	6,015,000	6,015,000	0	0	0	0

事業番号			4	事業名		いじめ・不登校対策				
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育				
	1	項	教育総務費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実				
	2	目	事務局費		基本事業4-1-2	豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成				
目的及び事業内容			いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。 また、いじめは、どの子どもにも、どの学校にも起こりうることであることを踏まえ、いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめへの適切な対処に向けて、組織的に対応していくもの。 不登校については、本県は全国でもその発生率が高く、大きな問題となっていたところへ、さらに東日本大震災による精神的ダメージが追い打ちをかける形となり、相当深刻な状況となっている。本町においてもその例外ではないことから、いじめと同様に、未然防止、適切な初期対応、継続的な自立支援を行い、子どもたちの社会復帰を支えていく。							
取組実績			1 はまゆり教室の取組 学校不適応児童生徒の個々の状態に応じた指導を行うことにより、学習意欲、自立心、社会性等を育て、学校生活への復帰を図るため、指導員を配置し、南三陸町適応指導教室「はまゆり教室」を開設。 (1)対象児童生徒…町内小中学校に在籍し、学校不適応等の理由により学校を長期にわたり欠席している、またはその傾向のある児童生徒 (2)開設日・開設時間…毎週火曜日～金曜日、9:00～15:00 (3)主な活動内容…教科学習、スポーツ活動、話し合い・相談、体験活動等 2 各学校の取組 児童生徒との面談・定期的なアンケートの実施 (1)心のケア、いじめ、不登校等の問題行動の早期発見を図り、全教職員の共通理解のもと、組織的に対応 3 スクールソーシャルワーカー(SSW)の活用(2名) 複数拠点校方式と派遣方式を併用し、志小、志中、入小、名小を拠点校として定期的に(隔週)全日勤務。要望に応じて他の学校を訪問し、それぞれが協調し合いながら各校の実情に応じた活動を行った。 4 スクールカウンセラー(SC)の活用 児童生徒の心のケアを行うため、各校に臨床心理士等の資格を有するスクールカウンセラーを配置し、心の安定に向けての相談・支援体制の充実を図った。 5 宮城県指定「みやぎ行きたくなる学校づくり」推進事業の取組 年間3回のPDCAサイクルによる授業改善を通して、新規不登校児童生徒を生まない学校づくりを行った。							
成 果			不登校になった児童・生徒が、はまゆり教室に通室したことで、個に応じた学習支援により、学ぶことの大切さを改めて理解し、自分なりに頑張ることができるようになってきている。また、はまゆり教室に通室することで、心身のバランスが取れ、別室あるいは自分のペースではあるものの、学校にも通うことができるようになった児童生徒もいた。また、行きたくなる学校づくりの取組により、新たな不登校となった児童生徒数は、前年に比べ減少した。 いじめについて、どんな些細なことでもしっかりと見つめ対応をしている。認知数は初期の段階で積極的に認知し、認知したいじめについては、長期のものや重大ないじめは見受けられず、あわせて、適切な対応をとったことにより、ほとんどの事案は解消済みである。							
成果に係る評価			いじめの解決に向けた様々な取組を各機関がしっかりとした関わりをもちながら行っている。 昨年度同様、積極的に認知し、認知したいじめについては、その多くが解消できている。 不登校児童生徒数は、昨年度とほぼ同数である。中学校に不登校の生徒が多い。昨年に比べ、新たに不登校となった児童生徒数は半減した。その反面、不登校継続数は減少しておらず、次年度の課題となる。 不登校問題を解決するために、未然防止のための魅力ある学校づくりと、不登校予備軍の児童生徒を組織で把握し、的確な初期対応を図っていく必要がある。また児童生徒の社会的自立を目指して、はまゆり教室の通級とともに、訪問指導等のアウトリーチによる支援にもあたり、更に取組を深化させる必要がある。							
予算の執行状況			(単位:円)							
			予算額	決算額	決算額の財源内訳					
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)	
			1,634,000	1,201,265	1,201,265					

事業番号			5	事業名		特別支援教育推進事業																													
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育																													
	1	項	教育総務費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実																													
	2	目	事務局費		基本事業4-1-3	特別なニーズに対応したきめ細かな教育の推進																													
目的及び事業内容				教育基本法及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の趣旨を踏まえ、心身等に障害のある特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切な指導と支援を行う体制を継続的に整備することにより、障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指していく。																															
取組実績				(1)特別支援教育推進委員会 町主催の南三陸町特別支援教育教職員研修会にて、町立小中学校教諭、町保育士、町保健師、あさひ幼稚園教諭、入谷ひがし幼稚園保育士を対象にした講演会を開催した。 講演「特別支援教育の現状と課題」 講師 宮城県総合教育センター 特別支援教育班 若山 洋 氏 このほか特別支援コーディネーター連絡協議会を2回開催し、各校の教育活動についての情報交換等を行った。 (2)教育支援委員会の開催 教育支援委員会を2回、専門委員会を2回開催し、特別な支援を必要とする幼児並びに児童及び生徒の教育的措置について答申した。また、教育支援委員会開催にあたり、町内の幼稚園、保育所、小中学校、保健福祉課と連携を図り、幼児児童生徒の継続的な支援を行うよう心掛けた。 (3)教員補助者の配置 教員の補助者を24名配置し、特別な支援を必要とする児童生徒に対してきめ細やかな学習環境を整えた。																															
成果				(1)特別支援教育推進委員会 特別支援教育を専門とする教諭等（特別支援コーディネーター）以外にも合理的配慮や※インクルーシブ教育に対する理解を深めることにつながった。 ※インクルーシブ教育とは、障害のある児童生徒が支援を受けながら、通常の学級又は学校で障害のない児童生徒とともに学ぶこと。 (2)教育支援委員会の開催 18名の児童生徒に必要な教育的措置についての協議を行い答申した。 (3)教員補助者の配置 教員補助者の配置により特別な支援を必要とする児童生徒に対して学習の補助を行ったことで、その児童生徒の学習理解を進めることができたほか、授業の進行もスムーズに行えた。また、肢体不自由などの障害のある児童生徒に対し、施設的な対応の不備により学校生活に支障をきたさないようにすることができた。 令和元年度各校教員補助者需要数及び配置数（単位：人） <table><tr><td>学校名</td><td>志小</td><td>戸小</td><td>入小</td><td>伊小</td><td>名小</td><td>志中</td><td>歌中</td><td>合計</td></tr><tr><td>需要数</td><td>6</td><td>0</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td><td>2</td><td>26</td></tr><tr><td>配置数</td><td>4</td><td>0</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td><td>2</td><td>24</td></tr></table>					学校名	志小	戸小	入小	伊小	名小	志中	歌中	合計	需要数	6	0	4	5	4	5	2	26	配置数	4	0	4	5	4	5	2	24
学校名	志小	戸小	入小	伊小	名小	志中	歌中	合計																											
需要数	6	0	4	5	4	5	2	26																											
配置数	4	0	4	5	4	5	2	24																											
成果に係る評価				特別な支援を必要とする児童生徒の保護者が、地元の学校や通常の学級で他の子ども達と一緒に学ばせたいと思うニーズの高まりや、インクルーシブ教育の推進に伴い学校側も積極的に受け入れる姿勢を取っており、これまで以上に特別な支援の充実が求められている。 教員補助者は、特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級で他の児童生徒と共に学ぶ機会を作ることにより大きく貢献している。 また、共に学ぶ環境をつくることで、対象児童生徒本人の社会性の向上を図れるだけでなく、周囲の児童生徒にとっても障害の理解、自己理解・他者理解へつながっている。 このように教員補助者は特別支援教育に大きく貢献していることを受けてニーズが高まっているものの、なり手が見つからないこともあるため、安定的に必要な人数を確保することが課題である。																															
予算の執行状況				(単位：円) <table><tr><td>予算額</td><td>決算額</td><td colspan="5">決算額の財源内訳</td></tr><tr><td></td><td></td><td>国(県)支出金</td><td>地方債</td><td>その他</td><td>一財(特交)</td><td>一財(特交以外)</td></tr><tr><td>30,554,000</td><td>22,474,734</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>22,474,734</td></tr></table>					予算額	決算額	決算額の財源内訳							国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)	30,554,000	22,474,734					22,474,734						
予算額	決算額	決算額の財源内訳																																	
		国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)																													
30,554,000	22,474,734					22,474,734																													

事業番号			6	事業名		児童生徒通学手段緊急確保事業																																																																																											
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育																																																																																											
	1	項	教育総務費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実																																																																																											
	2	目	事務局費		基本事業4-1-3	特別なニーズに対応したきめ細かな教育の推進																																																																																											
目的及び事業内容			東日本大震災の影響により児童生徒の通学環境が一変したことから、児童生徒の通学手段の確保と通学路の復旧が不十分な地域の児童生徒の通学の安全を確保するためスクールバスを運行する。																																																																																														
取組実績			令和元年度のスクールバスは述べ28ルート運行し、563名の児童及び生徒が利用した。乗降場所の変更時には、対象の町内小中学校の担当者、委託業者と現場確認を行い、運行の安全性や地域の区長とも連携を図り運行している。 学校別の運行状況は下表のとおり。 令和元年度バス運行実績<table><tr><td></td><td>利用人数</td><td>ルート数</td><td>運行日数</td></tr><tr><td>志津川小</td><td>130</td><td>7</td><td>203</td></tr><tr><td>戸倉小</td><td>42</td><td>2</td><td>202</td></tr><tr><td>入谷小</td><td>22</td><td>1</td><td>177</td></tr><tr><td>伊里前小</td><td>96</td><td>4</td><td>196</td></tr><tr><td>名足小</td><td>53</td><td>2</td><td>198</td></tr><tr><td>志津川中</td><td>141</td><td>7</td><td>205</td></tr><tr><td>歌津中</td><td>79</td><td>5</td><td>197</td></tr><tr><td>合計</td><td>563</td><td>28</td><td></td></tr></table><table><tr><td>運行ルート</td><td colspan="2">利用学校</td></tr><tr><td>荒砥・袖浜方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>清水・商工団地入口方面</td><td>志津川小</td><td></td></tr><tr><td>沼田方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>大船方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>林際方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>童子下方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>寺浜方面</td><td>戸倉小</td><td></td></tr><tr><td>寺浜方面</td><td></td><td>志津川中</td></tr><tr><td>荒町方面</td><td>戸倉小</td><td></td></tr><tr><td>荒町方面</td><td>志津川小</td><td>志津川中</td></tr><tr><td>林際方面</td><td>入谷小</td><td></td></tr><tr><td>港方面</td><td>伊里前小</td><td>歌津中</td></tr><tr><td>葦の浜方面</td><td>伊里前小</td><td>歌津中</td></tr><tr><td>弘川方面</td><td>伊里前小</td><td>歌津中</td></tr><tr><td>泊浜方面</td><td>名足小</td><td>歌津中</td></tr><tr><td>石浜方面</td><td>名足小</td><td>歌津中</td></tr><tr><td>徒歩通学臨時</td><td>伊里前小</td><td></td></tr></table>						利用人数	ルート数	運行日数	志津川小	130	7	203	戸倉小	42	2	202	入谷小	22	1	177	伊里前小	96	4	196	名足小	53	2	198	志津川中	141	7	205	歌津中	79	5	197	合計	563	28		運行ルート	利用学校		荒砥・袖浜方面	志津川小	志津川中	清水・商工団地入口方面	志津川小		沼田方面	志津川小	志津川中	大船方面	志津川小	志津川中	林際方面	志津川小	志津川中	童子下方面	志津川小	志津川中	寺浜方面	戸倉小		寺浜方面		志津川中	荒町方面	戸倉小		荒町方面	志津川小	志津川中	林際方面	入谷小		港方面	伊里前小	歌津中	葦の浜方面	伊里前小	歌津中	弘川方面	伊里前小	歌津中	泊浜方面	名足小	歌津中	石浜方面	名足小	歌津中	徒歩通学臨時	伊里前小	
	利用人数	ルート数	運行日数																																																																																														
志津川小	130	7	203																																																																																														
戸倉小	42	2	202																																																																																														
入谷小	22	1	177																																																																																														
伊里前小	96	4	196																																																																																														
名足小	53	2	198																																																																																														
志津川中	141	7	205																																																																																														
歌津中	79	5	197																																																																																														
合計	563	28																																																																																															
運行ルート	利用学校																																																																																																
荒砥・袖浜方面	志津川小	志津川中																																																																																															
清水・商工団地入口方面	志津川小																																																																																																
沼田方面	志津川小	志津川中																																																																																															
大船方面	志津川小	志津川中																																																																																															
林際方面	志津川小	志津川中																																																																																															
童子下方面	志津川小	志津川中																																																																																															
寺浜方面	戸倉小																																																																																																
寺浜方面		志津川中																																																																																															
荒町方面	戸倉小																																																																																																
荒町方面	志津川小	志津川中																																																																																															
林際方面	入谷小																																																																																																
港方面	伊里前小	歌津中																																																																																															
葦の浜方面	伊里前小	歌津中																																																																																															
弘川方面	伊里前小	歌津中																																																																																															
泊浜方面	名足小	歌津中																																																																																															
石浜方面	名足小	歌津中																																																																																															
徒歩通学臨時	伊里前小																																																																																																
成果			工事用の大型車両等が町内道路を頻繁に行きかうなか、スクールバスの運行により児童生徒の登下校時の安全を確保して交通事故を未然に防ぐことができたほか、地震発生時の津波に対する不安を軽減することができた。																																																																																														
成果に係る評価			住宅再建がほぼ完了し、一方で、市街地形成が進みつつある。通学路の安全が確保できる地域（志津川中央団地や戸倉団地など）では徒歩通学をしている。しかし、その他の地域では、依然として復興工事等により通学環境の整備が進んでいないため、スクールバスによる通学となっている。 今後、通学環境の整備が進み通学路の安全が確保できる地域については関係各所と連携し通常通学への早期復帰を目指していく。通学路の安全が確保できない地域については引き続き必要に応じ、継続していく。																																																																																														
予算の執行状況			(単位:円)																																																																																														
			予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																																																												
					国(県)支出金	地方債	その他																																																																																										
							一財(特交)																																																																																										
							一財(特交以外)																																																																																										
			161,887,000	147,895,127	52,318,169		89,055,639																																																																																										
							6,521,319																																																																																										

事業番号			7	事業名		外国語教育推進事業			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育			
	3	項	中学校費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実			
	3	目	学力向上対策費		基本事業4-1-4	特色ある学校づくりの推進			
目的及び事業内容			国際化の進展に対応して、主体的に生きる力や互いを理解し合う心とキャリアをもった児童生徒を育成するため、国際理解教育を推進する。 ・ 小・中学校におけるALT(外国語指導助手)を活用しての授業や交流を通して外国語教育と国際理解教育の充実を図る。 1 中学校における外国語教育(英語)の充実 2 小学校における外国語活動の充実 3 小中学校における国際理解教育の充実						
取組実績			【ALTの活用について】 1 外国語教育(英語) 元年7月後半よりALT(JET)を2名から3名に増員し、中学校で週3回から4回程度の配置で、英語の授業を行った。ALTは、英語の授業以外にも、例えば学校行事等に積極的に参加し、生徒と積極的に関わることができた。 2 外国語活動 小学校5・6年生で行われている外国語活動の授業にあわせて週1から2回程度配置し、担任と連携しながら、児童が楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養えるよう活動を行った。 3 国際理解教育 全学年で行われている国際理解教育の中でも担任と連携しながら、母国の伝統や文化を紹介する等、児童の異文化理解に貢献している。 ※JETプログラム・・・「語学指導等を行う外国青年招致事業」の略称。外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図り、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下に実施						
成果			ALTを各小・中学校に計画的に配置することで、外国語教育、外国語活動、国際理解教育をより推進することができた。授業や活動の中で、ALTが活躍することにより、児童生徒の意欲は明らかに高まった。 また、ALTによるネイティブの発音を聞いたり、ALTの母国の文化や伝統の話を聞いたりすることで、自分と日本、そして海外とを関わらせながら考えることができた。このような取組の一つの成果として、日本だけでなく日本を含めた世界で働きたいと願う児童・生徒の増加にもつながるものとする。						
成果に係る評価			外国語教育、外国語活動、そして国際理解教育に関して、各校より以下のような意見があげられている。 児童生徒の様子を伺うと、ALTと関わり英語を学ぶこと、そして英語を使って活動することを楽しんでいる児童・生徒が多い。しかしながら、その割合は、学年が上がるにつれて少なくなっていくようである。 おそらく、体験を通しての学びが多い小学校の外国語活動から、教科としての学力を求められる外国語教育、特に中学校1年生から中学校3年生へと学年が上がるにつれて、苦手意識をもつ生徒が増えてくるためだと考えられる。ALTとの関わり方も含めその指導の改善や小中の学習の連結が必要不可欠である。 また、令和2年度には、小学校3・4年生で外国語活動、小学校5・6年生で外国語教育(英語)が完全実施される。町では、各関係機関に働きかけながら教員対象の英語研修の実施など、より充実した教育環境の整備にも努めていく必要がある。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			9,619,000	9,599,998					9,599,998

事業番号			8	事業名		中高一貫教育推進事業				
予算科目	款		総合計画	政策4	学校教育・社会教育					
	項			施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実					
	目			基本事業4-1-4	特色ある学校づくりの推進					
目的及び事業内容				中学校・高等学校の6年間の中で計画的、継続的な教育を行うことにより「たしかな学力」「かがやく個性」「ゆたかな社会性」を培い、広い視野で主体的に生きる人間の育成を目指す。具体的には、志津川中学校、歌津中学校、志津川高校による連携型中高一貫教育を実施。 1 基礎学力向上関係事業 2 個性の伸長関係事業 3 社会性の育成関係事業 4 研修と広報						
取組実績				1 基礎学力向上関係事業 ・中高乗り入れ授業…高校教員が中学校で授業(数学68単位時間、英語69単位時間)を実施。 ・中高相互授業参観…中高の教員が互いに授業参観を行った。(参観教員数のべ71名) ・中高合同教科等研究会…中高の合同で学習内容・方法・形態等について確認。CRTテストの結果から南三陸町の実態を把握、学力向上に向けた課題を共有した。 ・つなぎ教材…中学生が高校入学前に、入学の準備として自作プリント等の学習に取り組んだ。 ・基礎力診断テスト…高校入学後のよりよい学習のために、新入生に国数英の基礎力診断テストを実施 ・チャレンジテスト…中1生～高3生が朝学習の時間に国数英の到達度別プリントを実施 ・検定試験チャレンジ講座…情報ビジネス課が主催し、中学校を会場に7回の講座を実施 2 個性の伸長関係事業 ・進路情報交換…6月の進路指導部会において、志津川高校の進路状況等について情報交換を行った。 ・夢実現ファイル…生徒の夢を実現することができるよう、進路関係の書類やテストの結果等をファイルに累積した。 3 社会性の育成関係事業 ・部活動の連携…中高合同での練習日を設定する等して、中高間の連携を図った。 ・学校行事の連携…中高音楽科教員による合唱コンクールの相互審査、文化祭での相互作品展示の実施。 ・生徒会交流会…生徒会執行部の交流会を実施 4 研修と広報 ・中高教員全体会…連携事業について、全体・部会毎に話し合いをもった。						
成 果				1 基礎学力向上関係事業 町内中学校の学力が全国平均に近づく等、基礎学力の向上については一定の効果が現れた。しかしながら、数学と英語の低学力層対策の必要性が明らかとなった。 連携事業により、中高という校種を超えた学びをしやすい環境を整えることができてきている。 検定試験チャレンジ講座を経て、13名の中学生がコンピュータの検定試験に合格。 2 個性の伸長関係事業 効果的な活用を模索したが、具体的な形で取り組むことはできなかった。 3 社会性の育成関係事業 生徒が様々な考え方に触れることができ、中高生が共により経験ができた。 4 研修と広報 連携での取組、そしてその成果を広く周知することができた。						
成果に係る評価				中高6年間という期間の中で計画的かつ継続的な教育を行うことは、確実に、「広い視野で主体的に生きる人間の育成」につながっている。この連携事業により、各校種の抱える教育諸問題を共有することが、生徒のよりよい育ちにつながるだけでなく、教員の資質の向上にもつながっていくものとする。 志津川高校を志望する生徒数の維持や増加については、それが本事業における主たる目的ではないこともあり、好ましい結果には結びついていない。今後も、町の高校魅力化事業とも連携を取りながら進めていく必要があると考える。また、令和2年度より、新学習指導要領の完全実施を見据えた新しい中高一貫の教育目標と指導の視点が設定される。目標に沿った新たな形の連携・教育活動の構築が求められる。						
予算の執行状況				(単位:円)						
				予算額	決算額	決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
				0	0					

事業番号			9	事業名		学校施設環境改善事業																											
予算科目	9	款	教育費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育																											
	1 2 3	項	教育総務費 小学校費 中学校費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実																											
	2 1 3	目	事務局費 学校管理費 学校建設費		基本事業4-1-5	安全・安心な学校教育の推進																											
目的及び事業内容			安全・安心な学校づくりという観点から、良質な教育環境の確保に向けて、老朽化した施設等の整備・改修を計画的に進める。																														
取組実績			施設の老朽化対策として、伊里前小学校屋内運動場改築工事を実施した。また、耐震化未対策であった歌津中学校武道場の天井改修工事を実施したほか、各学校施設の適正な維持管理のため、施設営繕に努めた。 全国的な猛暑による児童生徒の熱中症対策として、国の臨時特例交付金を活用して空調設備の整備を実施した。また、令和元年台風19号の影響により崩落した入谷小学校南側法面の調査設計業務を実施し、次年度工事への適切な処置を施した。 <table><thead><tr><th>事業名</th><th>決算額</th></tr></thead><tbody><tr><td>伊里前小学校屋内運動場改築工事</td><td>353,265,000</td></tr><tr><td>伊里前小学校屋内運動場ステージ照明設置工事</td><td>14,080,000</td></tr><tr><td>歌津中学校武道場天井改修工事</td><td>14,300,000</td></tr><tr><td>空調設備設置工事</td><td>291,500,000</td></tr><tr><td>志津川中学校仮設倉庫解体工事</td><td>1,080,000</td></tr><tr><td>伊里前小学校ポール修繕工事</td><td>604,800</td></tr><tr><td>名足小学校階段転落防止網設置工事</td><td>693,000</td></tr><tr><td>名足小学校渡り廊下転落防止手摺設置工事</td><td>792,000</td></tr><tr><td>入谷小学校法面補修工事</td><td>935,000</td></tr><tr><td>志津川中学校浄化槽修繕工事</td><td>276,100</td></tr><tr><td>伊里前小学校屋内運動場警備システム設置工事</td><td>550,000</td></tr><tr><td>令和元年度入谷小学校校庭災害復旧調査業務</td><td>4,510,000</td></tr></tbody></table> このほか、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や児童生徒が安心して学習できる環境整備に向け、「南三陸町学校施設長寿命化計画」を策定した。					事業名	決算額	伊里前小学校屋内運動場改築工事	353,265,000	伊里前小学校屋内運動場ステージ照明設置工事	14,080,000	歌津中学校武道場天井改修工事	14,300,000	空調設備設置工事	291,500,000	志津川中学校仮設倉庫解体工事	1,080,000	伊里前小学校ポール修繕工事	604,800	名足小学校階段転落防止網設置工事	693,000	名足小学校渡り廊下転落防止手摺設置工事	792,000	入谷小学校法面補修工事	935,000	志津川中学校浄化槽修繕工事	276,100	伊里前小学校屋内運動場警備システム設置工事	550,000	令和元年度入谷小学校校庭災害復旧調査業務	4,510,000
事業名	決算額																																
伊里前小学校屋内運動場改築工事	353,265,000																																
伊里前小学校屋内運動場ステージ照明設置工事	14,080,000																																
歌津中学校武道場天井改修工事	14,300,000																																
空調設備設置工事	291,500,000																																
志津川中学校仮設倉庫解体工事	1,080,000																																
伊里前小学校ポール修繕工事	604,800																																
名足小学校階段転落防止網設置工事	693,000																																
名足小学校渡り廊下転落防止手摺設置工事	792,000																																
入谷小学校法面補修工事	935,000																																
志津川中学校浄化槽修繕工事	276,100																																
伊里前小学校屋内運動場警備システム設置工事	550,000																																
令和元年度入谷小学校校庭災害復旧調査業務	4,510,000																																
成果			交付金を活用した大規模工事（伊里前小学校屋内運動場改築工事、歌津中学校武道場天井改修工事、空調設備設置工事）が無事竣工し、学校環境の改善につながった。建設課と協力しながら、工事開始から終了まで事故なく進めることができた。また、学校施設環境改善交付金及び臨時特例交付金の事務手続きにおいても適切な執行を行い、無事交付金事業終了となった。																														
成果に係る評価			交付金を活用した大規模工事が無事竣工し、老朽化が進む学校施設の修繕・改修を計画的に実施して良質な教育環境の確保に努めることができた。																														
予算の執行状況			(単位:円)																														
予算額		決算額		決算額の財源内訳																													
				国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)																										
922,490,000		703,204,100		112,340,000	564,000,000	0	0																										
							26,864,100																										

事業番号			10	事業名		災害教訓の伝承・防災教育の推進			
予算科目	9 9 12	款	教育費 教育費 復興費	総合計画	政策4	学校教育・社会教育			
	2 3 1	項	小学校費 中学校費 復興総務費		施策4-1	生きる力を育む学校教育の充実			
	2 2 2	目	教育振興費 教育振興費 地域復興費		基本事業4-1-5	安全・安心な学校教育の推進			
目的及び事業内容			自然災害をはじめとした様々な災害と向き合い「社会の中で生き抜く力」を培うため、地域の自然や歴史をふまえた防災教育を推進していく。また、震災の記憶や教訓を語り継ぐことにより、震災の教訓を風化させることなく次世代へ伝承し、恒久的な災害に対する予防啓発を図る。 1 町学校防災担当者会の設置と会議 2 「南三陸町立小中学校防災マニュアル」及び、家庭用リーフレット「津波注意報・警報及び特別警報が発表された場合」の発行（平成24年度からの継続事業） 3 各学校の防災教育に係る取組						
取組実績			1 町学校防災担当者会の設置と会議 安全担当主幹教諭を中心とした学校関係者、教育委員会、町総務課危機対策係、消防等が参加する会議において、町としての学校防災の今後の在り方について協議を行い、協議結果を基に具体的な事業を展開した。 主な事業としては、各校の防災教育への取組の共有化、冊子「南三陸町立小中学校防災マニュアル」及び、家庭用リーフレット「津波注意報・警報及び特別警報が発表された場合」の作成と発行を行った。今年度は、家庭用リーフレットの改訂を実施した。名称は「津波注意報以上が発表された場合」に変更した。 2 学校職員全員への「南三陸町立小中学校防災マニュアル」配布、及び全児童生徒保護者への「津波注意報以上が発令された場合」の配布 3 歌津中学校、志津川中学校が地域の核となり、避難所運営訓練等を実施した。今年度は、志津川中学校の少年消防クラブが、「全国少年消防クラブ交流大会」において、全校第2位の成績を収めるなど、地域との連携の中で、自分の命、そして安全を守る児童生徒の育成を目指した取組を、町内に発信し、各校の実践に生かした。						
成 果			1 町学校防災担当者会では、各校の防災に係わる取組を共有することができた。「南三陸町立小中学校防災マニュアル」及び、「津波注意報・警報及び特別警報が発表された場合」の改訂を通して、南三陸の現状に応じた防災、そして、防災教育の在り方について再確認することができた。また、ここでの学びを自校化し、各学校での防災教育にしっかりとフィードバックすることもできた。 2 「南三陸町立小中学校防災マニュアル」を町立学校の全職員に配布したことは、有事の際の自身の行動に見通しをもつことにつながった。その結果、児童生徒の安全はもちろん、教職員の安全を守るための準備をすることにもつながった。 「津波注意報・警報及び特別警報が発表された場合」は、昨今の状況を踏まえ、「水害・土砂災害の対応について」の項目を新たに設定し、改訂を行なった。全保護者に配布したことで、児童生徒の引渡や臨時休業について周知を図ることができた。結果、学校と家庭がしっかりと共通理解をすることができ、児童生徒の安全を協働しながら守る素地がより強くなった。 3 副読本を活用した防災教育を展開することにより、児童生徒の防災に関する知識と災害対応能力が向上した。将来、地域の安全を担っていく人材がしっかりと育ってきている。						
成果に係る評価			各校とも地域と連携した防災教育を実践することができた。また、歌津地区では歌津中学校を中心とした小中3校が、そして、志津川地区では志津川中学校を中心とした小中4校が、協働した避難訓練と引渡訓練を実施することができた。今後は、2つの中学校区が連携を取り合った、協働した防災教育を進めていく。 また、歌津中学校、志津川中学校が地域の核となり、取組の成果を町内全体に広げるとともに、防災副読本を活用した防災教育を更に進めていく。町が、学校や家庭、地域と相互に連携し、協働しながら防災教育を進めていくことで児童・生徒の命と安全をよりよく守っていきたい。 次年度は「南三陸町立小中学校防災マニュアル」の検証を進め、現状に見合った内容となるように、全面的に改定したいと考えている。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				一財(特交以外)
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	
			300,000	130,193	130,193				

事業番号			11	事業名		図書館運営事業			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり			
	4	項	社会教育費		2	生涯学習の推進			
	4	目	図書館費		1	生涯学習推進体制の整備・充実			
目的及び事業内容			■目的 震災により南三陸町図書館が流失。その後、オーストラリアの支援を受け、ベイサイドアリーナ横に仮設図書館を設置。読書を通じた学習機会の提供と図書館奉仕の実施により、学びと交流の場を創出し、生涯学習活動の一端を担いながら活力のあるまちづくりを目指す。 ■事業内容 資料の購入による蔵書数の増量を図る。また、平成29年度から司書を採用し、臨時職員6人とともに休日開館を実施し、貸出業務のほかレファレンスサービスを中心とした様々な情報提供を行うとともに、各種行事の実施により図書館の利用者拡大に繋げる。						
取組実績			●各施設の利用状況 ○南三陸町図書館 開館日数265日、来館者数31,278人、貸出冊数30,350冊 ※4月25日から開館。 ※毎週月曜日休館 ※2月4日～6日まで蔵書点検のため臨時休館。 ※3月3日～24日まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館 ○移動図書館の運行 日数100日、来館者数2,759人、貸出冊数1,014冊 ※志津川西復興住宅第1・2集会所、戸倉復興住宅集会所、入谷復興住宅集会所、伊里前復興住宅集会所、名足復興住宅多目的広場、志津川小学校、戸倉小学校、入谷小学校、伊里前小学校、名足小学校の11か所を運行した。 ●事業実績 ・図書館協議会を実施し、図書館の運営及び事業に関し、指導・助言をいただいた。 ・資料購入や寄贈の受け入れを行った。 ・独自事業として夏休み工作資料展や東日本大震災資料展などの各種展示会を実施した。						
成 果			・4月25日に新規移転開館をした。利用は大幅に増加した。 ・蔵書数は38,580冊となり、前年度に比べ、5,553冊増加した。 ・一日図書館員を3日間開催し、町内の小学4年生から6年生までを対象に各日2名を募集した。計4名の参加があった。 ・移動図書館車の巡回場所を追加した。						
成果に係る評価			利用者が増加傾向にある。少しずつだが図書館の存在が地域住民に根付いてきた。図書館機能や資料の充実を図るだけでなく、それを町民皆様に利活用してもらい、日々の暮らしを豊かにする学びの場を提供することが今後の課題である。図書館運営及び事業の質の向上を図っていく必要性がある。 新図書館が完成し、より一層、町民の皆様の生涯学習推進を図るとともに、地域を守り創造を育むまちづくりを目指すため、中長期的な図書館振興策の検討が必要である。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			13,914,000	12,809,490			2,636,465		10,173,025

事業番号			12	事業名		青少年ふるさと学習交流事業			
予算科目	12	款	復興費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり(学校教育・生涯学習)			
	1	項	復興総務費		2	生涯学習の推進			
	2	目	地域復興費		2	世代間交流の促進と学校教育・社会教育の連携の充実			
目的及び事業内容			震災により居住場所が分散し、交流事業等が容易でないことから、友好町庄内町との小学5・6年生の交流会や北海道本別町との中高生交流会等、支援をいただく関係団体と交流することにより青少年の健全育成を図る。 ●庄内町・南三陸町小学生ふるさと交流研修会 期日：令和元年8月7日(水)～8月9日(金)・場所：南三陸町内 ●南三陸町ジュニア・リーダー初級研修会＆南三陸・本別ふるさと交流研修会 期日：令和元年7月31日(水)～8月2日(金) 場所「宮城県志津川自然の家」						
取組実績			●庄内町・南三陸町小学生ふるさと交流会 ○参加者：庄内町5・6年生32名、南三陸町5・6年生28名、庄内町中学生ボランティア6名、南三陸町ジュニア・リーダー10名 ○内容：野外炊飯、養殖学習、洋上めぐり、キャンドルセレモニー他 ●南三陸町ジュニア・リーダー初級研修会＆南三陸・本別ふるさと交流研修会 ○参加者：南三陸町初級研修受講生3人・北海道本別町初級研修受講生6人、南三陸町ジュニア・リーダー13人、本別町ジュニア・リーダー3人 ○内容：理論「子どもの理解」「ジュニア・リーダーの役割」、実習「レクリエーション活動(キャンプファイヤー)」「安全教育」「自然体験活動(いかだづくり、いかだレース、カッター漕艇、バナナボート)」						
成果			・北海道本別町、山形県庄内町のジュニア・リーダーや子どもたちがこの活動で仲良くなり、これからの両町の友好関係を深めることにつながった。 ・子供会活動、地域活動などのボランティア活動に必要な基礎、基本を習得させることができた。このことによりボランティア精神の醸成につながっていくと思われる。 ・共同生活を体験することでこどもたちの地域間交流、協調性、資質の向上、健全育成をはかることができた。 ・両町の次代を担う青少年の育成につながり、今後の町のリーダー育成につながっていく。						
成果に係る評価			社会人になって地元に残ったメンバーはOB／OGとして現役ジュニア・リーダーの支援活動を展開。また、具体的な青年層の組織、ネットワークはないもののそれぞれ支援団体と協調し、祭り行事などにも参加している者もいる。また、大学などで南三陸町支援行動などこの町を考えるメンバーもいる。						
予算の執行状況			(単位：円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			1,595,000	1,089,495			1,089,495		

事業番号			13	事業名		社会教育施設等整備事業				
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり(学校教育・生涯学習)				
	4	項	社会教育費		2	生涯学習の推進				
	3	目	公民館費		3	社会教育施設の整備と有機的連携体制の構築				
目的及び事業内容				■目的 老朽化した入谷公民館を新築し、地域活動の拠点の再生、まちづくりの合意形成の場、学びの場、文化活動の場として地域の活性化を図る。 ■事業内容 ●入谷公民館の整備						
取組実績				設計業務6,194,880円 工事監理6,105,000円 建設工事138,325,000円 付帯工事433,125円 建設面積401.03㎡						
成 果				老朽化した入谷公民館の整備事業が完了した。建設の場所は旧入谷中学校跡地で入谷小学校に近接しており、これまで以上の賑わいの場所・集いの場所として期待できる。						
成果に係る評価				老朽化により一部使用が出来なく、地区の方々には不便をかけていたが、木造平屋建てとして建設し、バリアフリーにも配慮された作りになっており、旧入谷公民館より使い勝手のよいものとなっている。						
予算の執行状況				(単位:円)						
				予算額	決算額	決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
				220,000,000	151,058,005	0	106,700,000			44,358,005

事業番号			14	事業名		各種講習会・大会の開催			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり			
	5	項	保健体育費		3	スポーツの振興			
	2	目	体育振興費		1	生涯スポーツの推進			
目的及び事業内容			【目的】健康増進と体力向上を図るとともに、町民相互の親睦を深める。 【主たる事業内容】 ①少年少女ビニールバレーボール大会(対象:町内小学4～6年生) ②町長杯グラウンド・ゴルフ大会(対象:高齢者) ③ニュースポーツ体験事業(一般町民) ④ジュニア綱引大会(対象:町内小学4～6年生)						
取組実績			【取組実績】 ①少年少女ビニールバレーボール大会(教育委員会主催) ・令和元年11月16日(土) 会場:総合体育館 ・男子:7チーム、女子:10チーム 計148人 ・スポーツ推進委員9名 ②町長杯グラウンド・ゴルフ大会(教育委員会主催) ・令和2年3月26日(木) 会場:戸倉公民館グラウンド ・新型コロナウイルス感染予防のため中止 ③ニュースポーツ体験事業(教育委員会・町スポーツ推進委員共催) ・令和元年10月13日(日) 会場:ひころの里 ・台風のため中止 ④ジュニア綱引大会(教育委員会主催) ・令和2年2月2日(日) 会場:総合体育館 ・インフルエンザ感染予防のため中止						
成果			・各種事業等の実施により、誰もが身近に生涯スポーツに親しむ環境づくりを推進することで町民相互の交流を促進し、地域の活性化に大きな役割を果たしている。 ・高齢化社会において高齢者の生きがいづくりが大きなテーマであるが、スポーツを通じた余暇活動の充実と会話を通じた相互のコミュニケーションが図られることにより、高齢者の自主的・自発的スポーツ活動への取り組みが図られている。						
成果に係る評価			今後の取り組みとして、町民の誰もが自主的・自発的に個々の体格・体力に合わせた各種運動を行い、日々の運動を習慣化させることが大切である。現状では、町内の子どもと高齢者はスポーツを通じた健康づくりが徐々に図られつつある。また、中学・高校は部活動を通じた十分な運動が図られていると考えられるが、働く世代(20代～60代の労働者等)に対する運動習慣の定着化が不十分と考えられることから、総合的な健康づくりの面(運動・食事等)で情報提供や講習会、誰もが取り組める軽運動等の実施を図る必要があり、検討していきたい。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			496,000	375,741					375,741

事業番号			15	事業名		スポーツ少年団活動育成支援事業			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり			
	4	項	社会教育費		3	スポーツの振興			
	1	目	社会教育総務費		2	スポーツ団体・指導者の育成			
目的及び事業内容			【目的】 ①団員 スポーツ少年団を中心に集団活動を経験させることで、心身ともにたくましい人間成長に寄与する。 ②指導者 地域における特技・才能を持つ人材を活用し、互いに学び合う中から、指導者を育成し地域活動の推進を促す。						
取組実績			【取組実績】 ・県登録団体:10団体 内訳:野球2、剣道3、柔道1、空手道1、バスケットボール1、サッカー1、バレーボール1 ・団員数:計189人 ・指導者数:54人 ・活動日数:各団体ごとに年間150日(土・日及び平日1～2回程度実施)						
成 果			・スポーツ少年団活動の普及・推進を図り、スポーツを通じて子どもたちに運動することの大切さ、団における集団行動・社会規範等を学ばせることで、子どもたちの成長過程における心と体の育成に大きな役割を果たしている。 ・スポーツ少年団活動を各種目(地域)の指導者と親の会組織で形成し、個々にスポーツを通じた特色ある活動を行うことで、地域ぐるみの自主的なスポーツ活動の推進に繋がるだけでなく、地域コミュニティ再構築の一端を担っている。また、近隣市町の団体との各種交流事業や大会に参加することで、より広範囲での活発な地域交流が行われている。						
成果に係る評価			全国的な少子化やスポーツ種目の多様化などの影響から、当地域においても各スポーツ少年団の団員不足が問題視されている。入団者の増員を目指し、各学校へスポーツ少年団の入団PRに努める以外に、各団の運営組織の見直し(少数団体の統合)を図るなどして、団体と行政が連携・検討し、時代にあったよりよい形での団育成に取り組む必要がある。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			450,000	450,000					450,000

事業番号			16	事業名		施設整備事業			
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり			
	5	項	保健体育費		3	スポーツの振興			
	3	目	社会教育施設費		3	スポーツ施設の管理・運営の充実			
目的及び事業内容			【目的】 施設整備を年次計画的に行うことで施設の効果的、効率的な運営を図るとともに、町民の安心・安全な施設利用に寄与する。 【主たる事業】 ①平成の森球場スコアボード改修工事、②平成の森球場バックスクリーン外装改修工事、③平成の森球場放送機器更新工事、④平成の森球場内野席改修工事、⑤平成の森球場グラウンド整備工事、⑥平成の森客室空調交換工事、⑦スポーツ交流村給湯用真空ヒーター部品交換修繕、⑧平成の森貯湯槽温度調節器取付修繕、⑨スポーツ交流村蓄電池用触媒栓交換修繕						
取組実績			【取組実績】 ＜9-5-3-15 工事請負費 111,510,000円＞ ①平成の森球場スコアボード改修工事(93,852,000円) ②平成の森球場バックスクリーン外装改修工事(2,473,200円) ③平成の森球場放送機器更新工事(7,484,400円) ④平成の森球場内野席改修工事(5,940,000円) ⑤平成の森球場グラウンド整備工事(993,600円) ⑥平成の森客室空調交換工事(766,800円) ＜9-5-3-11 需用費修繕料 1,373,720円＞ ⑦スポーツ交流村給湯用真空ヒーター部品交換修繕(495,000円) ⑧平成の森貯湯槽温度調節器取付修繕(396,000円) ⑨スポーツ交流村蓄電池用触媒栓交換修繕(418,000円) ⑩その他修繕(64,720円) ※①～⑩ 計112,883,720円						
成 果			・町の屋内及び屋外のシンボリック施設である平成の森と総合体育館の整備・改修を計画的に推進することで、利用者の安心安全な施設利用が継続して行われている。 ・施設のリニューアルを機に、施設利用を町内のみならず、町外(近隣・県内)にも広くPRし、スポーツ施設を拠点とした交流人口の拡大に効果をあげている。						
成果に係る評価			平成の森球場の改修により、高校及び社会人野球など、他県・他市町からの利用も増加し、交流人口の拡大に成果があるものの、町外の利用者増に伴い町内の施設利用者への影響が懸念される。今後、復旧予定のスポーツ施設(平成の森多目的運動場、スポーツ交流村テニスコート)、松原公園、学校体育施設(学校開放事業)などの施設も含め、効果的なスポーツ施設の利用促進を図る必要がある。						
予算の執行状況			(単位:円)						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
			113,044,000	112,883,720					112,883,720

事業番号			17		事業名		芸術文化振興事業		
予算科目	12	款	復興費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり			
	1	項	復興総務費		4	文化の継承と創造			
	2	目	地域復興費		1	芸術文化活動の推進			
目的及び事業内容			○事業の目的 被災により傷ついた心を癒し復興に向けて皆が集い交流し精神面からリフレッシュを図り明日への原動力に導くきっかけとする。 ○事業内容 親子芸術文化鑑賞会、宮城県巡回小劇場、宮城県青少年劇場小公演の実施。生涯の各年代に応じた文化芸術鑑賞事業を取り入れている。						
取組実績			1 宮城県巡回小劇場 ビバ！ムジカと『喜びの歌』を歌おう 日程：令和元年10月11日（金）、会場：志津川小学校体育館、対象：町立小学校4年生から6年生 2 宮城県青少年劇場小公演 鍵富弦太郎、湯原拓哉 ヴァイオリンとチェロの演奏会 日程：令和元年11月15日（火）、会場：歌津中学校体育館、対象：歌津中学校全生徒 3 南三陸町親子芸術文化鑑賞会 親子芸術鑑賞教室「あきらちゃん＆ジャンプくんあそびうたコンサートin南三陸」 日程：令和2年1月19日（日）、会場：生涯学習センター大研修室 対象：幼稚園・保育所の園（幼）児とその保護者 4 共催イベント 朗読講座 日程：令和元年9月10日（火）～令和2年1月7日（火）、令和2年1月21日（火）						
成果			優れた芸術文化にふれることにより、心の癒しの機会を創出することができた。 各事業の観客動員数 1 宮城県巡回小劇場 273人（教職員等含む） 2 宮城県青少年劇場小公演 118人（教職員を含む） 3 南三陸町親子芸術文化鑑賞会 47人（JL等含む） 4 朗読講座発表会 38人（講師等含む）						
成果に係る評価			婦人団体の自主的な文化活動は盛んになっているが、それ以外の世代の文化芸術活動の展開に期待したいところである。 各事業において文化芸術について理解を深めている。小中学校においては積極的な取組がみられている。						
予算の執行状況			（単位：円）						
			予算額	決算額	決算額の財源内訳				
					国（県）支出金	地方債	その他	一財（特交）	一財（特交以外）
			872,000	585,000			585000		

事業番号			18	事業名		文化の伝承(無形民俗文化財再生支援事業)		
予算科目	9	款	教育費	総合計画	4	地域を守り創造を育むまちづくり(学校教育・生涯学習)		
	4	項	社会教育費		4	文化の継承と創造		
	2	目	文化財保護費		2	文化財保護活動の促進		
目的及び事業内容				町民による自主的な文化を創造する活動を支援し、関連団体の育成に取り組み、残された貴重な文化財を保存・活用する体制づくりを進めることが重要で、地域に残る芸能文化を保存・継承しながら、文化財の保護、保存、活用と文化財愛護の啓蒙を図るとともに地域コミュニティを復興することを目的とする。				
取組実績				■事業概要 郷土芸能用具の整備、活動の記録、発表会の復活を通じ、郷土芸能文化を保存・継承する。 ・郷土芸能用具の復興(平成26年度末に完了) ・郷土芸能の記録(平成26年度末に完了) ■(令和元年度実施) ・子どもたちの郷土芸能発表会(令和元年12月1日(日)実施、6団体(うちゲスト出演2団体)出演、ベイサイドアリーナにて) ・行山流水戸辺鹿子躍の指導育成伝承事業 行山流水戸辺鹿子躍保存会主催で、毎週、戸倉公民館で指導(練習)を行い、郷土芸能発表会を含め様々なイベントにおいて成果を披露している。 ・その他 総合学習などでの伝統芸能体験事業 志津川小学校で4年生を対象に地域芸能学習・体験事業を3回開催。戸倉小学校6年生を対象に通年で水戸辺鹿子躍の伝承活動を開催。入谷小学校では打囃子保存会の協力を得て6月13日の開講式から10回の学習会を行った。そしてその成果を郷土芸能発表会を含めて4回の発表会で披露した。				
成 果				行山流水戸辺鹿子躍、伊里前獅子舞、入谷打囃子など地域で行われている伝統文化の保護・伝承活動を支援しており、芸能伝承活動が定着化している。 また、復興を遂げた地域の郷土芸能等の伝承活動を続けている子どもたちに発表の場を提供し、相互交流を深めるとともに地域文化の向上と活性化を図るため、「子どもたちの郷土芸能発表会」を毎年12月に開催。				
成果に係る評価				各学校でも子どもたちへの伝承活動が定着しつつあるが、すべての地域に残る行事が伝承活動を実施できているわけではなく、高齢化に伴い消失の可能性が高い。また、震災後の支援によりデータ化などの民間支援もある。				
予算の執行状況				(単位:円)				
予算額		決算額		決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一財(特交)	一財(特交以外)
779,000		642,840				67,544		575,296

学識経験者からの意見

1 点検及び評価の対象事業に係る意見

事業番号1 志教育（キャリア教育）推進事業

（山内 順 氏）

- 志教育は、全県的に見ても当地域はモデル地区でもあり、高く評価されていると認識している。特に、各学校における具体的な取り組みは素晴らしい実績であると思う。
- ご協力いただいている地元の方々に対する謝礼は必要で、それが最終的に子どもたちに返っていくことと思う。

（西條 榮福 氏）

- キャリア教育は、社会との関わりを重点目標とした観点から「ゆとり教育」とも言える。生徒数の減少、社会環境の変化の中で、教える側、教えられる側がゆとりを持って無理なく進められているかという心配はある。ぎりぎりのところでの事業展開であれば、いつかの時点での決断も必要になってくると思う。そういった点に配慮しながら進めていってほしい。

事業番号2 小中学校学力向上推進事業

（山内 順 氏）

- 「南三陸町学習スタンダード」は震災前から、教育委員会の指導のもと校長会等でも力を入れてきたが、更なる定着化に向け事業を進めてほしい。

（西條 榮福 氏）

- 秋田県八峰町の教育現場視察がひと区切りとなった。教員指導力向上のための新たな研修を企画してほしい。
- 南三陸町の授業スタイルをしっかりと成熟させる、足元を固めるという意味の1年間としてほしい。

事業番号3 児童生徒・教職員心のケア推進事業

（山内 順 氏）

- 震災時に幼少期であった子どもたちが、震災から10年経過しようとする今もなお、心の中に深い影響が及んでいると感じる。そういった中で、当町においては、はまゆり教室や心のケアハウスを開設し、子どもたちを丁寧にケアしている状況に安心している。今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携をさらに深めて事業を進めてほしい。

（西條 榮福 氏）

- 特になし。

事業番号4 いじめ・不登校対策

(山内 順 氏)

- アンケートの実施の仕方は学校現場において非常に神経を使うところと思う。また、当町においても、県指定の「行きたくなる学校づくり」など一生懸命取り組んでいるようなので、今後ともよろしくお願いしたい。

(西條 榮福 氏)

- 新規の不登校児童・生徒が減少しており、先生方の努力に敬意と感謝を申し上げたい。また、はまゆり教室などの支援を展開しているが、今後もきめ細やかに粘り強く指導いただければと思う。

事業番号5 特別支援教育推進事業

(山内 順 氏)

- 本町の特別支援教育教職員研修会は伝統があり、充実した内容で行われていると認識している。参加対象も町立小中学校のみならず、町の保育士をはじめ、保健師、幼稚園教諭にまで拡大して行われていることは良いことだと思う。また、教員補助者は手厚く配置されていると感じた。

(西條 榮福 氏)

- 素晴らしい事業と評価しているが、一方で教員補助に応募される人が足りないことが悩みの種だった。私自身もこれまで教員補助者のご苦労の様子を見てきて、心身、そして体力的にも大変だろうと思う場面も多くあった。そのあたりも見極められ配慮いただけたらと思う。そうすることによって今後の継続性も高まっていくと考える。

事業番号6 児童生徒通学手段緊急確保事業

(山内 順 氏)

- 通常通学への早期復帰の方針は私も同感に思う。徒歩通学や自転車通学の意義は、子どもたちが地域の人にあいさつを交わし、ふるさとの道や景色を見ながら歩くことにあると思う。本来の姿が早くよみがえってくれば良いと思う。

(西條 榮福 氏)

- 志津川地区を中心に徒歩通学の再開が進んできている。少しずつ元に戻ってきていると感じている。当局でもいろいろな苦労はあると思うが、あくまでも最後は徒歩通学に向かっていくということだから、説明を重ねながら進めていってほしい。

事業番号7 外国語教育推進事業

(山内 順 氏)

- 当町の外国語教育は震災前から伝統的に力を入れてきたと認識しており、現在もその当時の教えが息づいていることが伺える。また、ALTとの関わり方については、学級担任の先生に対する指導や助言を継続していただきたい。

(西條 榮福 氏)

- 昨年度に1名増員したALTが今年に入って減少したのはもったいない。ぜひとも、

再び増員するための努力をお願いしたい。

事業番号8 中高一貫教育推進事業

(山内 順 氏)

- 十数年前にこの事業の立ち上げに関わった者として、当時の良いところが残されているし、改善もされていると感じる。また、乗り入れ事業についても、時代の流れで当時から方式が変更されているが、好評ということ聞き安堵している。
- 学校行事の連携においても、合唱コンクールの相互審査をしているという実績を聞き、大変良いことだと思う。
- 発足当時の理念、志津川高校の魅力を発見するということが大きい。当町の目玉の教育施策の一つなので、今後ともよろしくをお願いしたい。

(西條 榮福 氏)

- 高校生議会の開催など、町の施策として力を入れていることを感じている。事業の継続により、少しでも志津川高校への進学率を上げてほしいと願っている。

事業番号9 学校施設環境改善事業

(山内 順 氏)

- 伊里前小の体育館は大変立派で、子どもたちにとって良い施設ができたと言っている。
- (西條 榮福 氏)
- 教育は長いスパンで考えていく必要があるから、これだけの地方債を発行し、長期にわたって町全体でカバーしていくというスタンスだと思う。これだけの施設整備に関して、よく頑張っていたと思う。

事業番号10 災害教訓の伝承・防災教育の推進

(山内 順 氏)

- 防災教育は全国トップクラスの取り組みである。特に、各学校の防災主幹教諭の先生方が教育委員会の指導を受けながら、マニュアル等を作成しているという点で素晴らしいと感じている。
- (西條 榮福 氏)
- 複合型災害に対応すべくマニュアルの全面改訂への動きとなったことは良かったと思う。現場等とすり合わせをしながら進めていってほしい。

事業番号11 図書館運営事業

(西條 榮福 氏)

- 図書館は本を借りるだけの施設ではない。新しい図書館は、学習スペース等が確保されており、評価したい。今後とも蔵書購入予算を確保するとともに、移動図書館の充実を望む。

(山内 順 氏)

- 新しい図書館も完成し、支所の図書コーナーと併せてますます図書館機能の充実を感じる。

じる。移動図書館には図書館になかなか行けない方の利用に向けた取組みを願う。

事業番号12 青少年ふるさと学習交流事業

(西條 榮福 氏)

- 歴史のある事業である。ジュニア・リーダーでの交流を社会人となっても続けていていただきたい。
- (山内 順 氏)
- 長きにわたって継続している事業、そしてジュニア・リーダーのメンバーが減少していく中で、やる気のある者が続いていることに対し、敬意を表したい。

事業番号13 社会教育施設整備事業

(西條 榮福 氏)

- 入谷公民館の完成で、当町の社会教育施設整備は完了とのことで大変喜ばしいことである。
- (山内 順 氏)
- 入谷公民館の完成は大変喜ばしいことである。地域の人達、とりわけ入谷小学校の児童にとって、入谷公民館の役割は大きいものがある。伝習館と併せて、学習の場として期待している。

事業番号14 各種講習会・大会の開催

(西條 榮福 氏)

- 各種スポーツ大会が台風等で中止になったことは大変残念である。防集団地等の整備も終了し、それぞれの自治会が立ち上がってきており、コミュニティ形成にスポーツの果たす役割は大きいものがある。今後ともニュースポーツなどを取り入れたコミュニティスポーツの推進をお願いしたい。
- (山内 順 氏)
- 中止となった大会があったのは残念である。ビニールバレーボール大会等は学校経営の中心となっていると思われるので、大変な御苦勞とは思いますが、これからも頑張りたい。

事業番号15 スポーツ少年団活動育成事業

(西條 榮福 氏)

- 団員の数が189人とのことであるが、児童・生徒の2～3割程度と思われる。団には、団員の確保に向け努力願いたい。
- (山内 順 氏)
- スポーツ少年団の集団行動・社会規範等を学ばせる役割は大きいものがある。これからは団の存続に対し、努力願いたい。

事業番号 16 施設整備事業

(西條 榮福 氏)

- 施設は維持だけでも大変である。施設の有効活用を図るとともに、引き続き適切な維持管理をお願いする。

(山内 順 氏)

- 町外の利用者増に伴う町内の施設利用者への影響が懸念される。うまくバランスをとって、町内の利用者への影響が出ないよう配慮が必要である。

事業番号 17 芸術文化振興事業

(西條 榮福 氏)

- 文化芸術活動は一般の人達はなかなか触れる機会がない。その中で、小中学校で触れる機会を提供することは大変喜ばしいことである。あまり欲張らず、現在行っていることの継続を望む。

(山内 順 氏)

- 震災後は多くの方々から支援をいただいている。中でも、文化芸術の力は大きいものがある。このような事業は、長く継続していただきたい。

事業番号 18 文化の伝承（無形民俗文化財再生支援事業）

(西條 榮福 氏)

- 特になし。

(山内 順 氏)

- 小学校の教育課程に位置付けられているところもある。また、高齢化に伴い消失の可能性が高いところもあるようだが、データ化、楽譜化にして残すことも大切なことだと思う。

2 全体を通しての意見

(山内 順 氏)

- 本日は、一つ目として子どもの安全・安心、二つ目として生涯にわたる学びや健康づくり・地域づくり、この大きく二つの視点について意見を求められ、私なりに感じたこと申し上げた。何よりも、教育委員会当局が、子どもたちのため、そして地域のために尽力されていることを感じた。

(西條 榮福 氏)

- 教育委員会自らの評価、また、予算の執行について適切に行われていると感じた。特に施設整備に関して相当な努力の跡が見られる。すなわちそれが、子どもたちの教育に結びついていくわけなので、今後もこのあたりの意を用いながら尽力いただきたい。